

Willingness to Communicate (WTC) 研究：リフレクションと展望

応用言語学の分野にWillingness to Communicate (WTC) という概念が紹介されてから約30年、外国語学習において発話量が少ないとされる東アジア出身の学習者を中心に、多くの研究が蓄積されてきた。本講義では、1) 第二言語でのWTCに関連する要因、2) 第二言語でのWTCを育てるコンテキスト（周囲のサポート、学習環境）や教育実践、というアプローチに分けて研究の成果を振り返る。さらに今後の研究の可能性について、「授業デザイン」、「異文化接触」という二つの観点から論じる。



八島智子氏 (関西大学名誉教授)

関西大学名誉教授。大阪大学招聘研究員。岡山大学にて博士を取得。専門は応用言語学と異文化コミュニケーション論にまたがる。主な研究テーマは、第二言語使用と異文化接触および情意的側面。主な著書には、『異文化コミュニケーション論：グローバル・マインドとローカル・アフェクト』（共著：松柏社, 2012）、「外国語学習とコミュニケーションの心理」（関西大学出版会, 2019）論文は、Influence of attitudes and affect on willingness to communicate and L2 communication. *Language Learning*, 54.をはじめ、*The Modern Language Journal*、*International Journal of Intercultural Relations*, *Psychological Reports*, *System*などの国際誌に掲載されている。

参加費
無料

要事前
申し込み

お申し込みは
こちらから

申し込み締切：11月10日(火)

<https://forms.cloud.microsoft/r/aH7kP3As5x>



2026 **11/19** 木 18:00-19:30

関西大学千里山キャンパス 岩崎記念館 F401教室

※リモート履修制度による受講生で参加を希望される方は政外オフィスまでお知らせください。

※講演会へのご参加にあたり、合理的配慮をご希望の場合には、準備の都合上、11月2日までに、英語教育連環センター（e-LINC）担当オフィスの連絡先までご希望の内容をお知らせください。ご希望内容を確認のうえ、できる限りの対応を検討いたします。